

第2章 救いの9つの面

第九 救われたことの確信

確信について、次のアウトラインで学びます。

1. 「救われたことの確信」とは何か
2. 「確信」を持つための3つの前提
3. 「確信」の源
4. 「確信」のテスト
5. 「確信」に関する聖書箇所

1. 「救われたことの確信」とは何か

- (1) 信者が、自分は確かに救われている、と自覚すること、これが「救われたことの確信」である。
- (2) いったん救われた信者は、救いを失うことはない。聖書はそのように教えている。たとえ、信者が、この教えを理解せず、自分の救いを疑い、自分は救いを失ったのだと思い込んだとしても、その信者は救われている。
- (3) しかし、信者が自分の救いを疑うことなく、救われているとの確信を持つことは、豊かに実を結ぶ信仰生活を送る上で、とても重要である。聖書は、信者が全く疑う必要がないこと、また、確信を持つことができる、と教えている。
- (4) よって、「救われたことの確信」とは、信者本人が、自分は救われていて、天につながれている者である、と、はっきりと自覚できる、ということである。

2. 「確信」を持つための3つの前提

(1) 救いの性質を理解すれば、確信につながる

- ① 救いは、神からの無代価の賜物である。その人に何か良いことがあるから与えられた、というようなものではない。よって、与えられたあとで、その人に何か悪いことがあっても、救いが取り消されることは、決してない。
- ② 救いは、人のためにしてくださる神のわざである。人のわざではない。人のできるようなものではない。人の側でできることは、信じて救いを受け取るだけである。
- ③ メシアは十字架上で「完了した」と言われた。十字架上でなされたメシアのみわざは、完全である。信じて救われた後に、人の側で何かを付け加えるべきことは何もない。

(2) 信者は、自分の経験の中から、救われていることの証拠を確認できる (II コリ 13 : 5)・・・救われているなら、実際の生活の中で、救われているがゆえの現象が起きてくるはずである。

(3) 神の約束は、決して破られず、真実である

- ① 聖書は、信者が救われていることを自覚できると教えている (I ヨハ 5 : 13)。

② 聖書の他の約束を真実であると受け取るなら、この約束も信じるべきである。

3. 「確信」の源

- (1) 神のことば (ヨハ 1:12、ロマ 10:13)・・・聖書が、信者は神の子であると教えている。信者が神のことばをそのまま受け取るなら、その人の内に確信が生じる。
- (2) 信者の生活の中での働き・・・救われたら、何かしらの形で、その人の実際の働きとして現れる。行いで救われるわけでないが、救いを受け取った信仰は、何かの形で働き出す。その働きは、信者に自分が救われていることを自覚させる (テトス 3:4~8、Iヨハ 2:3~5)
- (3) 聖霊・・・聖書は、聖霊が確信を与えてくださると教えている。聖霊は、信者の霊と共に、彼らが神の子であると証言してくださる (Iヨハ 2:27~29、4:13)

4. 「確信」のテスト：確信がないからと言っても、救われていないということではない。しかし、もし、信者が、確信を持たずにいて、それを持ちたいと願うなら、次のような14のテストがある。13はヨハネ第一の手紙、最後の14番目はそれ以外の箇所からである。ヨハネ第一の手紙が主要テーマとするのは、確信である。確信を持つならば、信者は信仰生活において成長することができる。

- (1) Iヨハ 1:3~4・・・神との交わりを喜んでいますか？ “はい”であれば、あなたは、救われている。
- (2) Iヨハ 1:5~10・・・罪について敏感ですか？ あなたは大きな罪から離れていますか？ 罪を犯すと気分が悪くなったり、良心が強く痛みますか？
- (3) Iヨハ 2:3~5・・・神の命令に従順に生活していますか？ 信者は主の命令に従いたいという意志を持っています。あなたは主に対して従順な状態にありますか？
- (4) Iヨハ 2:15・・・世に対する態度はどうですか？ あなたは、神を愛するよりも、世を愛していますか？ それとも、あなたは、自分の生活の中心に世を置くのではなく、神を中心としていますか？
- (5) Iヨハ 3:2~5・・・あなたはメシアであるイエスを愛し、メシアの再臨を持ち望んでいますか？
- (6) Iヨハ 3:4・・・あなたは習慣的に罪を犯していますか？ すべての人は罪を犯します。しかし、その罪があなたの生活の中で習慣的になっているなら、それは問題です。もし、そうでないなら、あなたは救われています。
- (7) Iヨハ 3:14・・・あなたは兄弟姉妹から愛される存在ですか？ それともキリストのみからだ (=教会) の中で、不和の種となるような存在ですか、そうであれば自分に問うべき問題があるはずです。しかし、あなたが兄弟姉妹の間での愛を促しているのなら、あなたは救われています。
- (8) Iヨハ 3:22、5:15・・・あなたは、祈って答えられたという経験を持っていますか？ これまで全く祈りに答えられたことがないと思うなら、あなたは本当に

神を信頼して生活しているか、そして心から信じて願って祈っているか、見直すべきです。しかし、もし、あなたが自分の生活の中で神が働いてくださったことを経験したことがあるなら、また祈りに神が答えてくださったことがあるなら、あなたは救われています。

- (9) Iヨハ3:24b、4:13・・・あなたは聖霊の内なる証言を持っていますか？ 聖霊はあなたの内側に住んでおられ、「あなたは、神の子とされています」と教えてくださいます。
- (10) Iヨハ4:1~6・・・あなたは、霊的な真理と霊的な誤りとを識別することができますか？ もし、そのような識別力がないのであれば、あなたは、はじめから救われていなかった可能性があります。しかし、もし、あなたがそのような識別力を持っていて、誤った教えを見つける能力があるなら、あなたは救われています。
- (11) Iヨハ4:1・・・あなたは、キリスト教信仰の基本的教理を信じていますか？ 神学的な議論の中では一致することのできない場合もありますが、すべての真の信者が一致して信じる、ある一定の基本的教理があります。それらは、「信仰の初歩」とか「基礎的なこと」（ヘブ6:1~2）と呼ばれます。これらの基本的なことについては、すべての真の信者に異論がありません。もし、あなたが、基本的なことについて賛同していないのであれば、問題です。しかし、もし、あなたがキリスト教信仰の基本的教理を信じているのなら、あなたは救われています。
- (12) Iヨハ3:19~21・・・あなたは、心の内に、平安がありますか？
- 聖書が教える平安とは、まわりが平穏無事であることではありません。人生の嵐の中でも平安でいられる、そういう平安です。
 - 人生の嵐に遭遇して不安や疑いを抱いて悩むのは、神に信頼していないからです。神に信頼できない理由はいろいろですが、その一つは自分が本当に救いを受けた神の子なのか、確信を持ってないことです。
 - あなたの罪はすでに赦され、神はあなたに対して全く怒ってはおられません。そのことを知っていると、「神とつながっている。そのことだけで十分である」と落ち着くことができます。
 - この種の平安をもっていないと、人生の中で起きるいろいろな苦難に出会ったとき、神のみこころについてあれこれと考えて、こうだろうと決めつけないとすまない、そんな揺れ動くような状態になります。
 - もし、あなたが心の内に平安を持っていれば、あなたは確かに救われています。
- (13) Iヨハ2:7~11、3:11~18・・・あなたは兄弟姉妹を愛していますか？ もし、あなたがすべての兄弟姉妹といつもしっくりいかないようであれば、また、もしあなたが特定の兄弟姉妹に対して強い反感や憎しみを抱いているとしたら、あなたには深刻な問題があります（Iヨハ3:15）。あなたは元々救われていない可能

性があります（Iヨハ2:9、11）。しかし、もし、あなたが、仲間の信者とともに過ごす時間を喜び、また彼らと会うことを楽しみにしているのなら、あなたは救われています。

(14) Iヨハネ以外の箇所から（内容的には重複するテストです）

- ① ヨハ13:35、15:17・・・あなたは兄弟姉妹を愛していますか？ 兄弟姉妹が互いに愛し合っていますか？
- ② ロマ8:16・・・あなたには聖霊の証言がありますか？ 信者の霊とともに、聖霊は証言します、「あなたは神の子です」。すなわち、信者の内には聖霊が住んでくださっていて、信者の再生した霊に対して「あなたは神の子です」と、語ってくださいます。
- ③ IIコリ13:5・・・自分が真理の中にいるかどうかのテスト。自分自身をためしなさい。
 - 真理の中にいるかどうか、これは、いくつかの項目をチェックするテストです。たとえば、基本的教理に同意しているか、信仰生活の歩みは倫理的に問題ないか、あるいは、霊的に問題ないか、などです。具体的には、前述の1番から13番のテストが該当します。
 - Iコリ11:28「ひとりひとりが自分を吟味して」、この箇所では、特に聖餐式を受ける前の吟味を指しています。

5. 「確信」に関する聖書箇所

- (1) ヨハ20:31・・・ヨハネがこの福音書を書いた目的は、読者がイエスをメシアであること、そして神の子であることを信じるため、そしてそれを信じた者が、イエスの名によって永遠のいのちを持っていることを知ることができるように、である。
- (2) コロ2:2・・・神が信者に持ってほしいと願われることのひとつは、「理解をもって豊かな全き確信に達する」ことである。何について理解し、全き確信に達するのか。それは、信者の救いについてであり、この世にある信者たちの中で働いてくださるメシアのわざについてである。まさに、神は、信者が救われたことについての完全な確信を持つことを願っておられる。神は、信者が疑いの中で信仰生活することは願っておられない。信者が自分の救いについてしっかりと確信し、前へ進み、成長することを神は願っておられる。
- (3) Iテサ1:5・・・神は、信者が自分の救いについて強い（十分な）確信を持つよう願っておられる。その確信により、信者は自分が神の子であるとしっかりと認識して人生を歩むことができる。
- (4) ヘブ6:17~19・・・神の不変の約束によって立つことで、信者はたましいの錨（いかり）、すなわち自分が神の子であるという確信の錨を持つことができる。